

森林と木材が拓く ネガティブエミッションの世界

主催：（一社）日本木材学会、NPO法人才の木

後援：林野庁

参加無料・申込不要（どなたでも参加できます）

3月15日（水） 14:15～（予定）

九州大学病院キャンパス 百年講堂 大ホール

三菱地所提供

「三菱地所グループの国産材活用に向けた新たな取組

— 一気通貫のビジネスモデルで、まちとよりの架け橋に —」

株式会社三菱地所設計 三菱地所株式会社 MEC Industry株式会社

海老澤 渉 氏

「我が国における主伐再造林の現状と循環型林業確立に向けた課題」

宮崎大学農学部 森林緑地環境科学科

藤掛 一郎 氏

「リグノセルロースバイオマスの持続的生産・利用において

— 化学・代謝工学の観点から —」

京都大学 生存圏研究所

梅澤 俊明 氏

問合せ：第73回 日本木材学会大会事務局

wood2023@jwrs.org

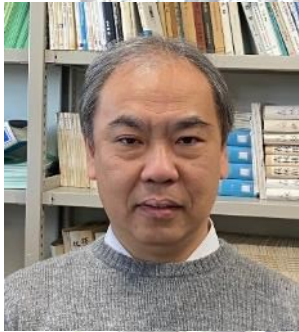
森林と木材が拓く ネガティブエミッションの世界

講演者プロフィール



海老澤 涉 氏

「三菱地所グループの国産材活用に向けた新たな取組
— 一貫通貫のビジネスモデルで、まちと木との架け橋に —」
三菱地所グループとして2016年から取り組んできた木造木質化事業のご紹介と2022年6月から本格稼働を始めた総合林業会社MEC Industryを紹介します。
1982年 東京生まれ
2007年 東京電機大学大学院工学研究科修了
同年 三菱地所設計入社 構造設計部配属
2016年 三菱地所 住宅業務企画部CLTユニット（現 関連事業推進室CLT WOOD PROMOTIONユニット）設立、兼務
2020年 MEC Industry設立、兼務
2021年 三菱地所設計R&D推進部内に木質建築推進室を設立し今に至る
2022年からは三菱地所グループ全体の木造・木質化事業の推進サポート。社内外の連携を通じ、「木（もく）」を通じた社会課題の解決に挑んでいます。
主な設計作品
「新宿イーストサイドスクエア」「JR博多シティ 駅前広場大屋根」「マークイズみなとみらい木漏れ陽ルーフ」「明治大学中野キャンパス」「八事山興正寺積木トイレ」「石田沢まちづくりセンター」「大手町パークビル」など



藤掛 一郎 氏

「我が国における主伐再造林の現状と循環型林業確立に向けた課題」
我が国の森林・林業政策の歴史も振り返りつつ、持続的な人工林林業経営、あるいは循環型林業を確立していくことが課題となってきた近年の状況を整理するとともに、人工林の主伐が最も活発に進む宮崎県での再造林率の分析などを紹介し、循環型林業確立に向けた具体的な課題について議論したい。

1969年福岡県生まれ。京都大学農学部林学科卒業。京都大学農学部助手を経て、2001年から宮崎大学農学部講師、2008年から教授。専門は林業経済学で、土地純収穫最大を行動原理とする育林経営モデル分析や伐採齢分布の統計分析を用いた森林所有者の伐採行動の解明、需要・供給関数の推定などを用いた木材市場分析を行ってきた。1990年代から主伐が広がり、日本林業の復活を先導してきた宮崎に移ってからは、素材生産拡大に伴う、主伐後の再造林放棄の問題や、伐採時の環境配慮の問題にも取り組む。後者については、県内の素材生産事業者を中心に結成されたNPO法人ひむか維森の会に参加し、素材生産業界のガイドライン制定や認証制度構築に関わってきた。この取り組みは全国的にも関心を集め、2022年には伐採撤出・再造林ガイドライン全国連絡会議が結成され、同会顧問を務める。



梅澤 俊明 氏

「リグノセルロースバイオマスの持続的生産・利用における
— 化学・代謝工学の観点から —」
持続型社会の構築に向けて、バイオマスの最も蓄積量の多いリグノセルロースバイオマスの持続的な生産とその有効利用システムの構築は喫緊の課題である。本発表では、この目的に沿った、リグニンの代謝工学を含めた国際共同研究プロジェクトの一例を紹介したい。
1982年 京都大学大学院農学研究科修士課程修了
京都大学木材研究所（現生存圏研究所）助手
1993年 京都大学木質科学研究所（現生存圏研究所）助教授
2005年～京都大学生存圏研究所教授
1992年 第32回日本木材学会賞
2018年～リグニン学会会長

研究領域
木質バイオマス形成機構解明とその応用、特に非可食性木質バイオマス資源の分子育種による有効利用法の開拓、バイオリファイナリーに適したイネ及びイネ科エネルギー植物の分子育種、植物（特に樹木）生理活性成分の生合成機構の解明と利用、リグニン、リグナン、ノルリグナンの生合成

問合せ：第73回 日本木材学会大会事務局

wood2023@jwrs.org